

評価対象ボーリングに追加したH31-R-1孔の破砕部と連続すると評価したため、破砕帯名を「f-r-1-1」に変更した。

・ 評価対象ボーリングに追加したデータを用いて、当該破砕部の連続性について再評価を行ったところ、f-r-1-1破砕帯に連続すると評価した。

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に形成された破砕部の性状等注)1	連続性検討結果	破砕帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N:正断層 RL:右横ずれ R:逆断層 LL:左横ずれ			
				(m)	(m)											
H27-B-3	-	-	①	26.70	26.90	N18E		61W		有	無	20L	LL			f-r-1-1
-	H31-R-1	範囲内	①	24.50	24.67	N2E	16	51W	10	有	無	5L	LL		○	f-r-1-1
		範囲外	②	38.69	38.72	N18E	0	36W	25	無	-	63L	N, RL		×	f-r-1-2
			③	42.24	42.31	N45E	27	83SE	36	無	-	73R	N		×	f-r-1-3
			④	42.68	42.80	N28W	46	10W	51	無	-	73R	R		×	f-r-1-4
			⑤	70.94	71.83	N20E	2	88W	27	有	有	79L	N		×	f-r-1-5
			⑥	72.72	73.09	N42E	24	59NW	2	無	-	28L	R, LL		×	非モデル化
			⑦	73.70	73.83	N16E	2	87W	26	無	-	74R	N		×	f-r-1-7
			⑧	74.57	74.68	N19E	1	75E	44	無	-	12R	RL		×	非モデル化
			⑨	84.89	85.12	N35E	17	28NW	33	無	-	40R	R, RL		×	非モデル化
			⑩	86.18	86.23	N2W	20	66E	53	無	-	20R	RL		×	非モデル化
			⑪	88.30	88.40	N19W	37	80E	39	無	-	64R	R, RL		×	非モデル化
			⑫	97.76	97.78	N23W	41	75W	14	有	無	28R	N, LL		×	H-4
			⑬	124.39	124.42	N22W	40	83W	22	有	無	46L	N, RL		×	H-5

注)1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。

- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内の可能性のあるもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性のあるもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・破砕帯名を「f-r-1-2」に変更（No.157-追6）

【理由】評価対象ボーリングに追加したH31-R-1孔の破砕部と連続すると評価したため、破砕帯名を「f-r-1-2」に変更した。

【断層連続性評価への影響】あり

2. 変更箇所

a 破砕帯名を「f-r-1-2」に変更（No.157-追6）

評価対象ボーリングに追加したH31-R-1孔の破砕部と連続すると評価したため、破砕帯名を「f-r-1-2」に変更した。

・ 評価対象ボーリングに追加したデータを用いて、当該破砕部の連続性について再評価を行ったところ、f-r-1-2破砕帯に連続すると評価した。

起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破砕部の性状				最新活動以前に形成された破砕部の性状等 注) 1	連続性検討結果	破砕帯名
				上端深度	下端深度					断層ガウジ・断層角礫の有無	明瞭なせん断構造・変形構造の有無	条線	変位センス N:正断層 RL:右横ずれ R:逆断層 LL:左横ずれ			
				(m)	(m)											
H27-B-3	-	-	⑤	56.69	56.72	N2W		36W		有	無	30L	N, RL			f-r-1-2
-	H31-R-1	範囲外	①	24.50	24.67	N2E	4	51W	15	有	無	5L	LL		×	f-r-1-1
		範囲内	②	38.69	38.72	N18E	20	36W	0	無	-	63L	N, RL		○	f-r-1-2
			③	42.24	42.31	N45E	47	83SE	61	無	-	73R	N		×	f-r-1-3
			④	42.68	42.80	N28W	26	10W	26	無	-	73R	R		×	f-r-1-4
		範囲外	⑤	70.94	71.83	N20E	22	88W	52	有	有	79L	N		×	f-r-1-5
			⑥	72.72	73.09	N42E	44	59NW	23	無	-	28L	R, LL		×	非モデル化
			⑦	73.70	73.83	N16E	18	87W	51	無	-	74R	N		×	f-r-1-7
			⑧	74.57	74.68	N19E	21	75E	69	無	-	12R	RL		×	非モデル化
			⑨	84.89	85.12	N35E	37	28NW	8	無	-	40R	R, RL		×	非モデル化
			⑩	86.18	86.23	N2W	0	66E	78	無	-	20R	RL		×	非モデル化
		⑪	88.30	88.40	N19W	17	80E	64	無	-	64R	R, RL		×	非モデル化	
		⑫	97.76	97.78	N23W	21	75W	39	有	無	28R	N, LL		×	H-4	
		⑬	124.39	124.42	N22W	20	83W	47	有	無	46L	N, RL		×	H-5	

注)1 最新活動以前に形成された破砕部の性状等について起点破砕部と対象破砕部の性状が類似しているかを確認する。

- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内のもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°以内の可能性のあるもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状のうち断層ガウジ・断層角礫の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似するもの
- : 起点の破砕部の走向・傾斜から±20°程度の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状(断層ガウジ・断層角礫の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位センス)が類似し、かつ、最新活動で形成された破砕部の性状等が類似するもの